

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 委員長会議報告／海外ニュース……………1
- 国際図書館連盟（IFLA）会議に参加して……2
- 関西懇親パーティに出席して／委員会報告…3
- 北京国際図書展示会……………4
- 洋書の世界……………5

委員長会議報告

2006年9月21日（木）午後4時30分～ 於協会事務所

1. 委員会報告

(1)総務委員会

8月までの収支はほぼ予算通りで推移している。

(2)広報委員会

次回セミナーは10月13日（金）で、タイトルは『意欲的な女性は会社志向？ 大卒若年社員の意識調査』女性の参加しやすいテーマを選んだ。また次回は1月開催予定。

(3)会報委員会

委員会主催で「納涼船」での懇親会を行い20名が集まった。

(4)文化厚生委員会

9月1日に関西懇親パーティを行った。参加39名と昨年より少なかったが、十分意義は果たした。11月2日の麻雀大会は会場を新宿に変えて開催予定。

(5)事業委員会

古書会館セールを11月7、8日に行う。

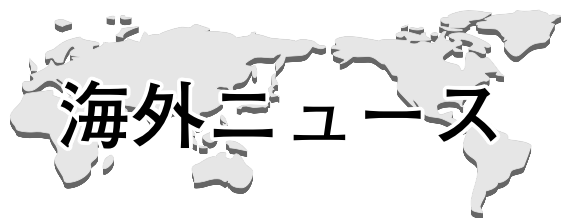
(6)ホームページ委員会

コンテンツを充実させたい。会員からの記事等を御願いたい。

2. その他

・第2回の「女性の会」が9月13日に女性経営者を中心に開かれ、多くの意見が出された。

・理事のローテーション案が理事長から出された。



◆… マンハッタンの大型書店が閉店

ニューヨークで32年間営業してきた大型書店が、連邦破産法第11条（日本の会社更生法にあたる）の適用を受け、店舗を閉めることとなった。

同店に25年間働いたRichard Urciuoli, General Managerは、「我が社が破産法に基づいて再建することは無いと思う」と言う。「この立地で、面積に見合う売り上げが見込めないからだ」。

1974年から2002年まで、同店は現在のタイムズスクエアより少し北側の、ブロードウェイと57丁目の交差点で営業してきた。賃借料の急騰に伴って移転し、ニューヨーク公立図書館に近い42丁目に一万フィート四方の店舗を開いたのだ。

「一年ほどは収支がトントンだったが、去年は売り上

げが落ち込み、今年の夏は更に悪化したので、損失を埋めることができなかった」とUrciuoliは言う。「近所にBarnes & Nobleが開店したことで、今年の夏は旅行者が減少したことが原因だ。この街の賃借料から見たら、こんな大規模の書店を経営するのはあまり良いアイデアではないし、マンハッタンの中心部で大規模な独立系書店が存続することは難しい。

同店では負債を解消するために在庫の処分を開始する予定で、「すでに値下げ販売は始めている」と述べるUrciuoliは、在庫処分には3～4週間ほどかかると見込んでいる。

PW Daily <http://www.publishersweekly.com>

OCT/2/2006 提供：丸善洋書部

会員の動き

代表者変更

(株)ニュートリノ

代表取締役社長

新任 柳楽 実郎

前任 山本 義朗氏は8月3日永眠されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

国際図書館連盟 (IFLA) 会議に参加して

第72回、国際図書館連盟会議 (IFLA, International Federation of Library Associations and Institutions) が8月20日(日)～24日(木)の5日間、韓国のソウルで開催されました。

IFLAは1927年に設立され「世界の図書館、図書館員の声を代表する国連の場」くだけた言い方では「世界の図書館、図書館員のお祭り」とも例えられるかもしれません。

今回のテーマは"Libraries: Dynamic Engines for the Knowledge and Information Society"でした。会議には世界122カ国から3,341人が参加され、5日間、活発な意見交換が行われました。参加人数の上位6カ国は地元、韓国、1158人(35%)、米国、334人、日本、231人、中国、212人、ロシア、100人、英国70人でした。韓国は「国の威信をかけての開催」という政治的な色彩を感じさせ、日本は国会図書館及びJSTI、日本図書館協会からの参加が多く、米国、英国は論文発表者、展示会でのプレゼンターも多く、将来のIFLAを視野に入れての参加という印象を受けました。日本洋書協会からも出展企業との関係で十数名が参加されていました。これらのメンバーとは別に私費でIFLA参加と観光を兼ねたライブラリアンが、我が国より多数、参加されていました。

初日のオープニングセレモニーは韓国、前大統領、金大中氏のスピーチで幕を開け、毎日、盛りだくさんの会議、分科会が開催され、各社の展示会場には90

社の展示が行われ、製品デモンストレーション、活発な意見交換等が行われました。

会議とは別に参加者に韓国を理解してもらう為の各種Social and Cultural Activitiesや各種図書館見学も平行して行われておりました。

IFLA会議参加者の目的は銘々まちまちであり、全体がどうであるという見方は非常に難しいと思いました。なお、来年のIFLAは南アフリカで開催される予定です。

(私の感じたこと)

1. 南北分断問題、離散家族問題(人口分布は南に4,700万人、北に2,300万人。南の人口の10%が離散家族と聞きました)、対北朝鮮の脅威(ソウルの周囲を取り囲む山の頂きにランジャンタワーという観光スポットタワーに隣接して北からの電波を遮断するアンテナがある。高速道路が飛行機の滑走路といった現実) 2つのソウル(町の中心部を流れる漢江を挟んでの経済格差)等々は東西ドイツの分断と壁の崩壊時を思い起こさせ、複雑な思いの5日間でもありました。
2. 「反日感情」は年代別に意見を聞いてみると、日本の中での印象とはだいぶ異なり、現在の独立や経済発展が日本無くしては成しえなかったという意見もあり、マスコミ報道の偏向を韓国人が訴えていたのは印象に残りました。
3. 日本に住んだ経験者からは「韓国では人にぶつかった

でも、決して「すみません、ごめんなさい」と言わないと聞かされましたが、実体験を通じて理解しました。

4. そうそう、一番大切なことを忘れていました。韓国人は食事が出された後にお酒を飲み始めます。先ず最初にビールから、その後にお酒やワインやウイスキーに慣れている私としては、この5日間、かなり辛い思いをしました。先人達はどうしていたのでしょうか？後に続く人達にも、ここがポイントと感じたのは酒飲み

の私だけでしょうか？

ユサコ(株) 清水昌昭



関西懇親パーティに出席して

去る9月1日（金）、大阪全日空ホテルで関西懇親パーティが開催されました。参加人数は約40名。昨年より参加人数は少なかったとのことですが、関西ならではの明るい雰囲気の中で歓談に花が咲き、あっという間に2時間という時間が過ぎてしまいました。

私は今回初めて関西地区の会に参加させて頂きました。東京をベースに仕事をしているとどうしても関西の方々にお目にかかる機会は限られてしまいますが、このような懇親の場において、通常取引がある・ないに関わらず、仕事の近況報告、業界動向に対する意見交換、趣味や人生の話等、多くの方々と話をさせて頂きました。東京で開催される会と比較すると規模は小さいものの、却って参加された1人1人とゆっくりお話することができ、単なる名刺交換に終わらず、この会を通じてまた多くの「出会い」を作り出せたことを嬉しく感じています。今回初めてお目にかかった方も、以前から存知あげている方も、ここで

の「出会い」を大切に、今後もお付き合いさせて頂ければ幸いです。

最後に、これは関西地区というよりも協会全体に関わることで、懇親会やゴルフなど通して協会内部における交流を深める一方、協会として協会外部に対する積極的な情報発信も必要であると考えます。洋書業界がおかれている厳しい状況を踏まえ、同業各社が1つになってできることは何か……。内部の結束を外部にむけて有効活用することも今後はますます必要となってくるのではないのでしょうか。

(株)Cambridge University Press Japan 平野圭子



委員会報告 <文化厚生委員会>

第122回 72会ゴルフコンペ

2006年9月16日（土）くもり 会場：武蔵カントリークラブ笹井コース 参加者：19名

〔成績表〕

氏名（所属）	グロス	ハンデ	ネット	ベストグロス	鶴	竜次（東亜ブック）	87
優勝 鶴 竜次（東亜ブック）	89	16.8	72.2	ドラコン	金原 優×2	齋藤 純生	
2位 齋藤 純生（日本文献出版）	93	20.4	72.6		久住多賀子	山下 志信	
3位 豊泉みゆき（大洋交易）	131	56.4	74.6		西山 幸児×3		
4位 柳 忠士（ワタナベ流通）	116	40.8	75.2	ニアピン	齋藤 純生	豊泉 弘	
5位 楠本 忍（日本洋書販売）	103	27.6	75.4		鶴 竜次×2		

北京国際図書展示会

北京国際図書展示会はちょうど20年前に第1回が開催されました。弊社はその時に出席をしましたが、その後は時期尚早という判断のもとに参加を控えておりました。昨今の中国の経済発展と将来性を見据えて今回の出展となりました。最初は隔年開催でしたがこのところ毎年開催となり、今回は第13回ということです。期間は8月30日から9月2日までの4日間で、北京市街の東北の端にある中国国際展覧中心という見本市会場の1号館と呼ばれる3階建ての建物1棟を使っている展示会でした。会場は必ずしもいつも同じところというわけではありませんが、昨年・今年・来年はこの場所ということです。因みに第1回のときはもっと市街地中心に近い場所だったと聞いています。来年は8月30日から9月3日までの日程で開催されますが、裏手にある8号館も使って増床の予定になっています。今までは国別の区切りがされていましたが、来年は部分的に分野別の区切りも取り入れるようです。電子出版や漫画がそれぞれ一つの区切りにまとめられるとのことでした。

今年はロシアが主賓国のせいもあってか、開幕前夜のレセプションは人民大会堂で盛大に執り行われ、ロシア人の手になる中国研究書6点の表彰式も併せて行われました。大広間に膨大な数の丸テーブルが置かれ、数千人が着席しての大変な大宴会となりましたが、さすが中国は規模がでかいと思ったものでした。

この展示会の日本での事務局はトーハンの海外事業部と東方書店が運営しております。ブースでの主な仕事は翻訳権の売りです。展示品そのものを買いたい人が出てきた場合は一定のフォームにタイトルなどを記入して、会場内の日本事務局に持ち込むことになっています。会場は全体が一種の保税倉庫のようなもので、海外からの書籍の即売行為は一切禁じられています。展示品については「出品目録」が作成され、中国各地の書店、大学、研究機関などに配布され受注促進に利用されます。展示会とその後の注文は全てトーハン海外事業部に寄せられることになります。

販売についても、また翻訳権売買についても日本と

中国の物価の開きの大きいことが問題として付いて回ります。あるいは人民元が安すぎると言った方がよいのでしょうか。労働者の平均月給が1万円位といわれていますので、個人で日本の書籍を買うのは厳しいでしょう。また翻訳権売買によるロイヤルティも現地での販売価格が基本となりますので、これも日本側からみれば厳しい商売です。今後の中国の経済発展が人民元の価値を押し上げ、この辺の矛盾を少しずつ解消してくれることを期待したいところです。

一方で物価水準が低い分、ホテル代以外の街中での滞在費は信じられないくらいに安上がりです。地下鉄初乗り30円にも驚きましたが、タクシーに乗っても街中で150円以上になるようなことはまずありません。昼食は150円、夕食は300円見当で、500円飲み食いするのは容易ではありません。しかし一旦ホテルに戻ってしまうと日本国内と同じような掛かりになります。

フランクフルトとの規模の大雑把な比較では参加国数で約2分の1、出展社数で約4分の1、入場者数で約2分の1といったところですが、全体的な数字を眺めた限りでは東京はおろか台北、ロンドンをも上回っていると言ってよいでしょう。

ヨーロッパやアメリカからの出展社もかなりの数に上りますが、展示担当者は本国からではなく、中国での出先機関あるいはアジアでの出先機関から参加しているケースがほとんどです。フランクフルトやロンドンの参加社が世界を相手に版權を含む売込みを目指すのとは異なり、あくまでも中国に売込むことが各出展社の眼目です。逆に中国の出版物の売買契約や版權取得もあるようですが、ごく限られているようです。2006年の北京オリンピックを控えた中国の著しい進展とともにこの書籍展も拡大していくものと思われる。

(株)医学書院 乗原 七男

(3) 米国の出版人

前号では英国の出版人を採りあげましたので、今回はそのアメリカ編として私見を述べさせていただきます。ご存知の如く、米国は広大な領土を擁しアメリカ建国の歴史で明らかな様に、その人口構成は大半が欧州その他諸国からの移民で形成されて居り、米国が多民族国家であることを予め指摘せねばなりません。日本でも東北、関西、九州の他、地方には各地域特有の地勢、歴史、文化上の違いが存在し、又各地方固有の言葉ナマリがある様に、米国に於いても大別して東西南北に位置する各地域では、多数を占める住民の祖先の出身国が固有のライフスタイルを形成し、住民の交わす会話には地域特有の発音があることに気がきます。

出版の中心都市は、東部にあってはニューヨーク周辺とボストンで、西部ではサンフランシスコ、ロスアンジェルス、北部ではシカゴとその周辺都市です。南部に特定する都市はありませんが、幾つかの著名な版元がこの地域にも存在します。その他、全米に散在する私立、州立の大学が擁する出版局が90近く在り、北米に於ける学術書出版界では一大勢力を成しております。英国に存在する著名な人文、社会科学関連の専門出版社に対し、米国には理、工、医学分野で優れた有数の版元があります。その背景で特筆すべき点は、米国内の大学、その他先端科学技術（特に宇宙工学、ITとテレコミュニケーション、バイオテクノロジー分野）の研究機関はいずれも充実した研究施設を保有して居り、諸外国から留学し研究活動に専念する人材を厚遇、重用して受け入れる土壌があり、これらが強力に豊富な出版資料創出の源泉となって居る様に思われます。

所謂アメリカン・ヒーローの出現を容易ならしめる多くのアメリカ企業は、個性豊かで優秀な社員の業績と貢献度を最大限に重視し且優遇する人材活用の体制が整えられて居ります。これが勢い出世昇進に意欲を燃やす社員の多くが、より積極的に職場の選択を図ることで地位の向上を目指す要因ともなっており、惹いては各企業での幹部クラスの交代人事は日常茶飯事の如く繰り返されて居る現状があります。例えば、突然登場する新任役員の子多くは事業を廻る協議に当って常

に前任者の成果を凌ぐ実績の達成を実現することに焦点を絞り商談が進められる傾向があります。

これは私の体験上での述懐ですが、新任役員との対応で、例えば在庫用商品の増強手段で要望に応える場合伴うリスクの軽減が必要故、現行の取引条件の改善を求めて交渉を進めました。そして多くの場合、折衝は有利な展開で結論に至った経緯がありました。然しながら代理店にとっては、この有利な約定がやがて版元の純益率の低下に繋がることになる事が予測されましたが、年度の決算期日以前に当該役員は既に他社への転職を果たして居ったケースが多くありました。

一般的に申し上げて、米国出版社の役員の子多くは極めて職能に優れ、且行動的であることは事実ですが、一般業務に携わる多くの社員は必ずしも有能とは言えず業務部門のサポート体制が弱いことにしばしば気付きました。そこで私は機会ある毎に、編集、営業部門への優秀な人材の配置も然る事ながら、受注サービス、在庫管理、経理部門を担当する社員の優劣が最終的な事業実績の成果に多大な影響を齎す事実を経営陣に指摘、強調する必要に迫られました。

2億8千万余の人口を擁する米国では教科書市場の規模も大きく、大手出版社の子多くは学生向けのテキスト教材の出版で業績を拡大して居り、その上全米に散在する多数の図書館は出版産業を潤す一大要因でもあります。反面、多くの出版社は海外市場との取り組みに当り、英国の出版社に比べますと関心の薄いことに気付きます。

1830年代に渡米して、つぶさに米国を見聞したアレクシス・トクヴィルがやがて著述に及んだ“アメリカに於けるデモクラシー”で明らかな様に、建国200年余で世界の大国を創出したアメリカの依拠する精神、即ちデモクラシーは常に米国社会の根底にあり、自由市場経済の体制下であらゆる産業は発展拡大の道を辿ったことは明らかです。広大な地勢、豊富な資源、そして他民族の集団が発揮する強力なエネルギーが今日米国の隆盛の根源と思われますが、これは又同時に経営手腕に優れた有数の出版人がアメリカン特有の企業戦略を駆使して出版界にその存在を誇示して居る様に思われます。



2007 年新規代理店のご案内

出版社 : Portland Press (英国)

<http://www.portlandpress.com/>

ポートランドプレス社は著名な学協会と協力して質の高い雑誌を刊行しています。

Biochemical Society は Biochemical Journal を始め細胞生物学や分子生物学などライフサイエンスの広い領域においてインパクトファクターの高い下記の雑誌を提供しています。

いずれもオンラインジャーナルでのアクセスも可能です。

Biochemical Journal

Biochemical Society Transactions

Biotechnology and Applied Biochemistry

Biology of the Cell

Clinical Science

Cell Signaling Biology (オンライン)

Biochemical Society Symposia (オンライン)

Essays in Biochemistry (オンライン)



★購読料および詳細についてはお問い合わせ下さい。

東日本営業所 : Tel: 03-3505-3256

西日本営業所 : Tel: 06-6393-0303

日本総代理店

ユサコ株式会社

106-0044 東京都港区東麻布二丁目 17 番 12 号 Tel-03-3505-6161、Fax-03-3505-6284

日本洋書協会会報 vol.40 No.10(通算471号) 発行日2006年10月25日 編集者 正田 実

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-17-3 TEL 03-3264-8791 FAX 03-3264-8790

URL: <http://www.jaip.gr.jp> E-mail: jaip@poppy.ocn.ne.jp